

くにたち しらべ



NO.19

発行 2015 年 3月

編集＝くにたち図書館地域資料ボランティア

発行＝くにたち中央図書館

テーマ

『くにたちの校歌』

はじめに

自分の学校の校歌は、卒業しても忘れなかったり、どうかすると大人になってもずっと覚えていることもあります。

けれど、自分の学校以外の校歌は、近所であっても意外と知らないのではないのでしょうか？

校歌の歌詞の中には、市町村や地域の特色を示す言葉が、たくさん出てくるものもあります。歴史、山や川などの地形、木や花などの自然、学校や地域の有名な特徴など・・・。

市の名前である「国立」、もう少し広い地域を表す言葉として「多摩」や「武蔵野」の語句はどのぐらいの校歌で使われているのでしょうか？

もっともっと広い言葉、日本や地球や宇宙といった語句も出てくるのでしょうか？

校歌の作詞者・作曲者の中には、いくつもの校歌を作った方がいます。

詩や童謡で有名な方もいれば、昔の校長先生など学校に縁のある方の場合もあります。

国立市全体をよく調べた郷土史家の方もいらっしゃいます。

以下に、国立市内にある学校のうち、校歌のない国立音大附属小・中・高を除く18校の校歌の歌詞の一覧を作り、歌詞の中に出てくる言葉を調べてみました。

桐朋学園小学校については、校歌という形の歌はないものの「小学校の歌」という独自の歌を歌うとのことでしたので、これを掲載しました。

なお、参考として、国立の校歌を載せた後に「国立市の歌」を載せました。

さらに、国立市に近い他市の小中高校の歌詞も巻末に紹介します。

使われている言葉が国立市とどう違うか、比べてみましょう。

掲載校歌の一覧

国立市立国立第一小学校
国立市立国立第二小学校
国立市立国立第三小学校
国立市立国立第四小学校
国立市立国立第五小学校
国立市立国立第六小学校

国立市立国立第七小学校
国立市立国立第八小学校
国立市立国立第一中学校
国立市立国立第二中学校
国立市立国立第三中学校
桐朋学園小学校

桐朋中学校・高等学校
東京都立国立高等学校
東京都立第五商業高等学校
一橋大学
国立学園小学校
東京女子体育大学・
東京女子体育短期大学

一小



作詞:原田重久 作曲:清瀬保二

- 一、 緑の丘に ひはもえて
やまなみ晴れる このあした
ひかりあふれる まなびやの
窓はひらくよ かがやくよ
国立 国立 第一小学校
- 二、 明るく 清く 美しく
歴史をほこる 白梅の
はなのかおりに つつまれて
双葉は のびる すこやかに
国立 国立 第一小学校
- 三、 広場よ丘よ まなびやよ
われら心の ふるさとに
今日もむつみの手をとりて
まるいなごみの輪をつくる
国立 国立 第一小学校
- 四、 はてなく広い 空の下
あしどりかるく はずませて
むさしだいらの 道をゆく
このあけくれの たのしさよ
国立 国立 第一小学校

二小



作詞:原田重久 作曲:岡本敏明

- 一、 桜咲く丘 澄む流れ
松のみどりに 風わたり
富士もほほえむこの朝
ああ 学び舎の窓ひらく
国立、国立、国立第二小学校
- 二、 輝きほこる紋章に
われわの心あらわして
仰ぐ真澄の高い空
伸びる希望のプラタナス
国立、国立、国立第二小学校
- 三、 明るく 清く うつくしく
なごみの空に 手をとりて
まるい むつみの輪をつくる
この明けくれの楽しさよ
国立、国立、国立第二小学校

三小



作詞:谷淑子 作曲:大中寅二

- 一、 むさしのの風 さわやかに
みどりの松を わたるとき
希望の歌は たからかに
かがやく空に こだません
われらが 国立第三小学校
- 二、 ゆたかなる夢 いだきつつ
歴史とともに のびゆかん
ふるき国土に 新しき
いぶきをみたせ たくましく
われらが 国立第三小学校
- 三、 未来を展く 花びらの
つぼみのごとく すこやかに
こころすなおに はげみつつ
日毎築かん 吾が母校
われらが 国立第三小学校

四小



作詞:真下政安 作曲:日野正雄

- 一、 かげろうもえて 雲雀が 鳴くよ
緑めぐらす 武蔵野林
清く 明るい 我等の心
国立第四小学校
- 二、 富士の高ねに 夕日が はえて
とんぼとぶ空 心も澄んで
強く 正しい 我等の力
国立第四小学校
- 三、 足並みそろえ 肩 くみあって
文教地区の 国立町に
高く 輝け 我等の望み
国立第四小学校

五小



作詞:中田重三郎 作曲:中村祥子

- 一、伸びるよ 伸びるよ どこまでも
伸びる力は ぼくたちの
わたしたちの中にあるんだ
どこまでも 伸びるよ
伸びるよ どこまでも
- 二、育つよ 育つよ どこまでも
育つ力は ぼくたちの
わたしたちの中にあるんだ
どこまでも育つよ 育つよどこまでも
- 三、磨けよ 磨けよ どこまでも
輝く力は きみたちの
あなたたちの中にあるんだ
どこまでも磨けよ 磨けよどこまでも
- 四、鍛えよ 鍛えよ どこまでも
若い力は きみたちの
あなたたちの中にあるんだ
どこまでも鍛えよ 鍛えよどこまでも

七小



作詞:谷川俊太郎 作曲:谷川賢作

たびしてみたい いろんなところ
はなしてみたい しらないひとと
ちきゅうはとつても たのしいほしだ
まなぶ みとめる たすけあう
からだところろ すこやかに
だいじにしよう たがいのきもち
まもっていこう みどりのこかげ
ちきゅうはとつても ゆたかなほしだ
うたう ゆめみる といかける
からだところろ しなやかに
くにたちだいになしようがっこう

六小



作詞・作曲:杉本竜一

- 一、風薫る国立で 僕ら学んでる
見上げる空のキャンバスに 何を描こう
陽のあたる校舎から 未来見つめてる
ほんの小さな夢だけど ポケットにしまったよ
you are my friend
手をつなぎあおう いつまでも
you are my friend
仲良き 友でいよう
- 二、水清いこの川は 私たちの舟
思い出いっぱい積み込んで 虹へとつづく
美しい花たちで 心飾りたい
素敵な愛の束にして 誰かに届けましょう
you are my friend
手をつなぎあおう いつまでも
you are my friend
仲良き 友でいよう

八小



作詞・作曲:遊佐未森

- 一、国立の風は 希望をのせて
あのレモン色の 校舎の窓へ
君が手を振ってる
笑顔こぼれてゆく
結ぶ声のリボン
友達が いつも待ってる
- 二、国立の森は 自由の息吹
大地にしみ込む 歌をうたう
君と拾いあつた
丸いどんぐりの実
時をわかち合える
八小はみんな仲間さ
- 三、国立の道は まっすぐな道
果てしない夢に 歩いて行こう
桜咲く並木を
見てるその瞳に
明日を描いてゆく
八小に 光あふれる

一中



作詞:原田重久 作曲:岡本敏明

- 一、むさしひろはら 風わたり
多摩の横山 みはるかす
このまなびやの あさひかげ
窓はさやけく ひらけたり
国中 国中 あけゆく母校
- 二、きよきこころは 白百合の
花のすがたを そのままに
正しくつよく おおらかに
のびるわれらに ひかりあれ
国中 国中 ひかりの母校
- 三、ああ文教の 地とほこる
ここは国立 あさゆうを
おしえの庭に いそしみて
つどうわれらの うれしさよ
国中 国中 われらの母校

二中



作詞:本間一咲 作曲:生内義夫

- 一、朝はみどりの風すみて
学び舎めぐる日は若し
むつみでともに新しき
ひとすじのみち進むもの
国立二中 おおわれら
- 二、昼はまどべに相よりて
はるかな夢を語り合う
富士が嶺ひかり呼ぶところ
希望の歌も高らかに
国立二中 みよわれら
- 三、夕べしづかな武蔵野の
丘みはるかす時計台
正しくつよく美しき
ゆくてしめして今日も鳴る
国立二中 ああわれら

三中



作詞:鈴木慶城 作曲:尾野勝己

- 一、大空清く 晴れわたり
心ゆたかに 国立の
昔の道を 尋ねては
真理を今に 求め行き
いそしむ 国立第三中学校
- 二、寒さに堪えて 花開く
梅の香りに つつまれて
からだを鍛え 日に進み
幸ある未来 つくるとて
学ぶは 国立第三中学校
- 三、みどりさやかな 谷保の森
富士をはるかに 理想とし
明るい社会 築くため
梅のみのりを 心とし
はげむは 国立第三中学校

都立国立高等学校

作詞:原田重久 作曲:波多野靖祐

- 一、 たちばなの かおりゆたかに
わかくさの もゆるまなびや
あたらしき 希望のまどに
花ひらく この朝ぼらけ
国立高 われらのひかり
- 二、 身を修め 精神をみがき
ほがらかに 清く正しく
うつくしき 理想の丘に
栄光の 旗うち立てん
国立高 われらのほこり
- 三、 風わたる むさしひろはら
清麗の 富士は晴れたり
眉あげて 若人われら
いざ仰げ この金字塔
国立高 われらの母校

都立第五商業高等学校

作詞:原田重久 作曲:平岡養一

- 一、「序詞」
もゆるみどり かおるわかぐさ
うちはるる ちちぶやまなみ
まどにひろばに 光あふれて
あけゆく まなびや
ああ五商 われらが母校
- 二、「和」「校花」
かぜもさやか むらさきそうの
はなひらく むさしひろはら
あさな夕なを とともにむつみて
たのしき まなびや
ああ五商 われらが母校
- 三、「紋章」「希望」
ますみの空 しろきつばさの
はたたきて 映ゆる紋章
くにたちのさと ゆたけきところ
希望のまなびや
ああ五商 われらが母校

一橋大学 校歌「武蔵野深き」

作詩:銀杏会同人 作曲:山田耕筰

- 一、 武蔵野深き松風に 世の塵をとどめぬところ
新しき朝の光に うら若き血潮さながら
自治の鐘高鳴りひびく 自由の殿堂われらが母校
一ツ橋 一ツ橋 あゝ あゝ われらが母校
- 二、 富士が嶺遠くわだつみの 八潮路をさきがけゆきて
まだ知らぬ道をひらきし 伝統の気魄こりたる
胸の炬火世界を照らす 理想の殿堂われらが母校
一ツ橋 一ツ橋 あゝ あゝ われらが母校
- 三、 わが日の本の要ぞと 時計台いしづえかたく
とこしえに天を指しては 揺ぎなき真理かゝげて
水の如いや澄みわたる 文化の殿堂われらが母校
一ツ橋 一ツ橋 あゝ あゝ われらが母校

桐朋学園小学校「小学校の歌」

作詞:児玉実雄 作曲:片岡不二子

- 一、みどりの林 富士遠く
流れる雲は ぼくらのいのち
希望あふれる 桐の学舎(いえ)
なかよし こよし 元気な子
桐朋 桐朋 明るい学園
- 二、青桐(あおぎり)高く 風かおる
はばたく鵬(とり)は われらののぞみ
光にみてる 学び舎(まなびや)で
なかよし こよし 元気な子
桐朋 桐朋 楽しい学園

桐朋中学校・高等学校

作詞:佐藤春夫 作曲:信時潔

- 一、国立の丘にして 学校のよき窓は
老い松の枝越しに 富士ありて若人を
おほらかに教へ居る 天地に人な愧(は)ぢそと
- 二、玲瓏(れいろう)と仰がるる 高根なる雪に似む
わが心俯して知る 武蔵野の春秋に
少年は老い易し 天地は永遠に新に
- 三、好き友の寄り集ひ 多摩の岸玉攻き
志いや高く 名もゆかし桐の朋
鳳凰の雛の家 天地の真実琢み

国立学園小学校

作詞:中村為治 作曲:加藤為三郎

- 一、国立の我が学園は
松林くぬぎの林
春の日に小鳥来てなき
夏の日緑のこかげ
秋の日にもみじ葉紅く
冬の日日差しうららか
- 二、国立の我が学園は
松林くぬぎの林
ここによき師の君達は
我らをば教えはぐくむ
限りなき慈愛の眼
朝夕に我ら導く
- 三、さればこのよき学園に
学ぶさちうけし我等は
ちえすすみ身も健やかに
いと強く直く正しく
幼き日うれしくすごし
よき人と生い立ちゆかん

東京女子体育大学 東京女子体育短期大学

作詞:小林純一 作曲:長谷川良夫

- 一、果てしない 空のひろがり
風光る 土のひろがり
ここよ ここ あずに羽撃く
新人の集まるどころ
東京女子体大
ああ 武蔵野に 今 いま
燃えあがる 燃えあがる
希望のみどりよ
- 二、青春の 日日を悔いなく
ひたすらに 鍛え鍛えて
しかもなお 花を心に
美しく養うところ
東京女子体大
ああ この胸に 今 いま
わきあがる わきあがる
新たな決意よ
- 三、技を練り 知徳みがいて
おおらかに 育て 薫れと
桐の花 高く揚げて
学風をたたえるところ
東京女子体大
ああ この庭に 今 いま
さんさんと さんさんと
光は 輝く
光は 輝く

国立市の歌

作詞:長友貞雄 作曲:水野隆司

- 一、むさし野の はてなところ
村つくり いく代(よ)をか経て
あたらしき まちは生まれぬ
おおいなる 歴史のなかに
われらの国立 平和のまちよ
- 二、巷(ちまた)には ひかりあふれて
まちびとの 心あかるく
ゆるぎなき 誓(ちかい)をまもる
ひらけゆく 世界に立ちて
われらの国立 自由のまちよ
- 三、ふかみどり 松の林や
塔(とう)高く 鐘のひびきて
おごそかに 真理(まこと)を伝う
かがやける 文教の地に
われらの国立 理想のまちよ

校歌歌詞によく出てくる言葉について

校歌の歌詞の中には、国立市らしい言葉、多摩地方や武蔵野らしい言葉、郷土に根ざした色々な言葉が出てきます。

次の言葉が、どの学校の校歌に登場するかを、探してみました。

言葉	その言葉が歌詞に含まれる学校(略称)
「国立」または「くにたち」	四小、六小、八小、一中、三中、五商、桐朋中高、国立学園
「谷保」	三中
「武蔵野」「武蔵」「むさし」	一小、三小、四小、一中、二中、 国立高校、五商、桐朋中高、一橋大、女子体大
「多摩」	一中、桐朋中高
「富士」	二小、四小、二中、三中、国立高校、桐朋小、桐朋中高、一橋大
「文教」	四小、一中
市の花である「梅」	一小、三中
市の木「イチョウ」、 市の鳥「シジュウカラ」	(使用校なし)
「桜」	二小、八小
「松」	三小、桐朋、一橋大、国立学園
「川」「流れ」	二小、六小

市名である「国立」よりも、もっと広域を示す「武蔵野・武蔵(むさし)」の語がよく使われていることがわかります。これらは、国立市以外の市でも同様に、よくうたわれています。

市内の地名は、昔の村名であった「谷保」が三中の校歌の中に出てきますが、「中」や「東」などの地名が歌詞に入っている校歌は見当たりません。

次に登場頻度の多かったのは「富士」です。市内に「富士見台」という地名が生まれ、学校も多く新設された昭和40年代頃までは、市内各所から富士山が見えたそうです。最近では、地上からは建物で隠れて見え難くなってしまいましたが、校舎の上の階からなら、今も富士山が見える学校が多いのではないのでしょうか。

富士山以外にも、「多摩の横山」「秩父」などの山が、歌詞に登場しています。

国立市の南を流れる「多摩川」は、桐朋中高の校歌に少し難しい表現で登場しますが、市全体では「多摩川」という言葉はあまり使われていません。他市ではもっと多くの校歌でうたわれています。国立市の学校は、多摩川のすぐ近くではなかったからかもしれません。六小校歌に出てくる「川」は、校庭を流れる矢川でしょうか？

『発掘！校歌なるほど雑学事典』（※参考文献）によると、

「武蔵野」という語句は、東京西部の校歌で最も登場頻度が高い言葉の一つである。

「武蔵野」は東京都と埼玉県で、「多摩川」は東京都と神奈川県で多く使われていると、分析されています。

校歌には、さまざまな花や木の名前も出てくるのがわかりました。
梅(市の花)、桜、松、プラタナス、どんぐり、百合、橘、くぬぎ、桐 などなど・・・。
「市の花」ではありませんが、国立は桜並木で有名なため、「桜」が歌詞に多く登場します。
また、「市の木」イチヨウは校歌に出てきませんが、昔の国立に多く生えていた「松」が
4校もの歌詞で登場しています。
学校のシンボルとなっている木や花の名前を校歌に取り入れている学校もあります。

一般的な名詞としては、「丘」「風」「空」「光」「緑」「道」などの言葉が多く使われています。
「地球」「世界」「天地」など、スケールの大きな言葉も出てきます。
他校と共通点の多い校歌もあれば、非常に個性的な校歌もあります。
文語体という昔の書き言葉でできている歌詞もあれば、今の言葉の歌詞もあります。
漢字の多い歌詞もあれば、ひらがなの多い歌詞もあり、英語の入った歌詞まであります。
繰り返しの表現や、対になっている語句を見つけてみるのも面白いでしょう。

めぐる四季をよみこんだ校歌、朝昼夕の移ろいをうたった校歌もありました。
そして学校生活の目標や理念、楽しさなどが素晴らしい言葉でうたわれています。

作詞者として、原田重久氏の名前の多いのにも気がつきます。
原田重久氏は国立市の郷土史家で、『国立歳時記』『国立風土記』『谷保天満宮物語』
『わが町国立』などを執筆され、図書館にも蔵書が多くあります。また、同氏が作詞した
「東京都歌」は、昭和22(1947)年に応募数千作の中から、都の歌に選ばれました。

学校の中には、その歴史の中で学校名が変わったところもあります。
学校のある場所の地名が変わったところもあります。
そういった変遷が、校歌の歌詞の中に垣間見えることがあります。

その校歌が、どうしてそのような歌詞になったのか、調べてみると
宝探しの探検のように面白い発見があるかもしれません。

最後に、国立市の近隣各市にある学校の校歌をいくつか参考に載せます。
国立の校歌と似ている所や違う所を見つけてみてください。

国分寺市立第二中学校

作詞 土岐善磨 作曲 信時 潔

光はまさに東より 町空高くあけゆくとき
希望の斜面草もえて 若葉のそよぎ影ふかし
春よ 夏よ あふれる力よ
ひとしく競えずこやかに

くぬぎのみどり花咲きて 秩父も富士も風晴れたり
むさし野広く開けては 社会の道も新たなり
秋よ 冬よ 澄みゆく心よ
友情かたくみのるべし
第二中学われらあり
あゝ国分寺 歴史を誇れ

国分寺市立第五中学校

作詞:横山輝子 作曲:前多栄二

- 一、 明けゆく大地の 光と共に あふれる英知の 泉湧く
ああ天平の 学び舎は 自由と平和の 息吹伝え
新たに今 国分寺五中 若き力は ここに立つ
- 二、 はるかな山並み 樺のかなた はぐくむ創意の 雲は湧く
ああ世界の かけはしに 文化と理想を胸に抱き
未来へ今 国分寺五中 若きつばさは はばたかん

府中市立府中第一中学校

作詞:土岐善磨 作曲:信時潔

- 一、 鳥なき 花さき 空うららに
林も丘も みどり新し
春なり われらの春なり いま
仰げば かの樹 こずえ高く
ふる葉は風に ひるがえる
- 二、 夏すぎ あかねの 雲さやかに
すすきは なびき 稲はみのりぬ
秋なり われらの秋なり いま
望めば 富士のね 秩父かけて
新雪 冬も また近し
- 三、 ああ この武蔵野 わが府中に
いそしみ 学び 友もむつまじ
自主なり 真理と 社会の前
誇れや 常に ここに立ちて
肩くみ進む よろこびを

府中市立府中第十中学校

作詞:吉田達雄 作曲:五十嵐康博

- 一、 紫匂う 西府野に
よろこびあふる 学舎は
富士のきよらな影うつす
府中十中 わが母校
- 二、 希望のあかり 遠く見て
進もう友よ ひたすらに
はげむ心の 支えなる
府中十中 わが母校

国分寺市立第四中学校

作詞:中山渡 作曲:菊地保男

- 一、 国分寺 国分寺
はずむ響きの美し名 萌えたつ森よ
風 さわやかに
そよぐ けやき
すくすくと若き心をはぐくみて
土器に生けたる桑の葉の
旗風立ちて 清けくわれら
- 二、 国分寺 国分寺
古きみ寺のおもかげ 薫るよ歴史
富士 遠白く
色づく けやき
つやつやと若き力をみなぎらせ
土器に生けたる桑の葉の
旗風立ちて 雄々しくわれら
- 三、 国分寺 国分寺
光けやきに輝き 明けゆくところ
知恵 みかきては
思い 深め
はつらつと学ぶ心の夢はるか
土器に生けたる桑の葉の
旗風立ちて 賢くわれら

府中市立府中第七小学校

作詞:小林純一 作曲:中田喜直

- 一、 風さわやかな 武蔵野の
みどりをうつす 白雲に
希望のひとみ 輝かし
学ぼう きょうもと 窓開く
府中 おお 府中第七小学校
- 二、 また 清らかな多摩川の
早瀬を進む 若あゆが
きらめきおどる いきおいで
育とう きょうもと 声あがる
府中 おお 府中第七小学校
- 三、 また 名も古い町に今
輝き並ぶ 鉄の塔
未来の文化 この腕に
になおう みんなと ちかいあう
府中 おお 府中第七小学校

日野市立日野第四小学校

作詞: 巽聖歌 作曲: 渡辺浦人

- 一、 風だ 光だ さわやかに
すぎゆくところ わが第四小
若葉のみどり 照り映えて
学べば我に 理想あり
ああ われらの 日野第四小学校
- 二、 多摩の河原に とび跳ねて
育つ若あゆ わが第四小
文化の誇り 日野橋も
科学の日野の 夢あらた
ああ われらの 日野第四小学校
- 三、 窓を開けば 富士たかく
清らにのぞむ わが第四小
明日の日本の にないてと
世界の空に はばたかむ
ああ われらの 日野第四小学校

都立日野高校

作詞: 勝承夫 作曲: 井上武士

- 一、 みどり さわやかに 空広やかに
窓には清き 武蔵野の風
若き英知の みなぎるところ
夢多き センペルセコイヤ
純情の われらあり
日野高校に のびゆく力
- 二、 光なごやかに 日に新しく
呼べば答える 高幡の丘
多摩もながれを 寄せ合うところ
永遠の 意気のまほろば
友情の 泉あり
日野高校に かがやくわれら
- 三、 遠き あこがれよ 富士はれやかに
明日待つ姿 情熱の雲
つねに希望の 燃えたつところ
かぎりなき 愛のふるさと
青春の 星座あり
日野高校よ われらが母校

立川市立第六小学校

作詞: 高麗彌助 作曲: 保田正

- 一、 雲晴れて
富士の嶺はるか
友よ学べよ
命若く
われら立川第六小学校
- 二、 羽衣に
光はみちて
心明るく
呼べよ健康
われら立川第六小学校
- 三、 陽にひらく
文化の花は
いよよかおれよ
多摩の土に
われら立川第六小学校

立川市立第九小学校

作詞: 古関吉雄 作曲: 岡本敏明

- 一、 つらなる秩父の峰は青く
浮く雲ましろに夢をさそい
若鳥われらは翼をふる
かがやく大空はて遠く
- 二、 静かにさくらの影をうかべ
ゆく水はるかに思い運び
けやきの木末にそよ風
たのしい調べをのせていく
- 三、 清らなあこがれ花とかおり
明るい希望に胸はおどる
いこうよ足なみかろやかに
立川第九小学校

立川市立南砂小学校

作詞: 小林純一 作曲: 中田喜直

- 一、 風がさわやかに 吹くところ
日がうららかに 照るところ
ここよ立川 わたしたちが
あすの時代に おい茂る
苗木と競い 伸び育つ
南砂 南砂小学校
- 二、 遠く並び立つ 多摩の山
ひとときわ高い 富士の峰
ここに仰いで わたしたちも
心一つに 結びあい
力を寄せて 励みあう
南砂 南砂小学校
- 三、 進め誇らしく 意気高く
えんじの旗を 先頭に
雲の彼方へ 若いはとが
強く羽ばたき 飛ぶように
理想を目ざし またきょうも
南砂 南砂小学校

立川市立立川第二中学校

作詞: 原田重久 作曲: 宇賀神敏道

- 一、あけぼのの空 すみわたり
麗峰冴ゆる多摩山河
希望あふるる まなびやの
窓はひらきぬ 音高く
立川二中 われらの母校
- 二、自然のめぐみ 人の愛
凝りて理想の 園かおる
明るく美しく たくましき
ああ清新の 花どころ
立川二中 ほこりの母校
- 三、さみどりの松 もゆる草
みよかがよえる 校章に
文化のひかり 添うところ
若木はのびる すこやかに
立川二中 伸び行く母校

都立立川高校

作詞: 前田恒樹(土井晩翠 監修)

作曲: 南能衛

- 一、玲瓏(れいろう)の水百萬の
民の命をつなぐ源(もと)
流れて息(や)まぬ多摩川の
清きあしたの面(おも)に見よ
掬(むす)ぶに盡(つ)きざる無言の訓(さとし)
- 二、芙蓉の姿東海の
邦(くに)のしづめと立てる山
雲に聳(そび)ゆる富士の嶺(ね)の
夕(ゆうべ)嘯(うそ)ぶく影に見よ
藏(おさ)めて盡(つ)きざる有形(うぎょう)の教
- 三、紫匂ふ武蔵野の
あとに基おく教の舎(や)
遠き歴史のかげ負ひて
踏むべき道を忘れめや
見よかの流水さとしぞ永き
- 四、廻(めぐ)る三度(たび)の春秋を
共に睦(む)むわがつどひ
歩みはとほに新しき
学びの窓に誉あれ
見よかの高山教ぞ高き

立川市立立川第三中学校

作詞: 久松潜一 作曲: 下総皖一

- 一、武蔵野の果て 富士を仰ぎ 情(こころ)きよらかに 智慧に澄み
創造の道を きずきゆかん ゆくては遠くはろけし
いざ われら 立川第三中学校
- 二、くぬぎ林の 新(にい)わかめ のびゆくがごと おほしたつ
若人のとも 身をばきたえ 進まば道はひらけん
いざ われら 立川第三中学校
- 三、多摩の横山 ふみわけて 風雪のうちを ゆかん日も
自立の心を よりどとし 進まば日はかがやかん
いざ われら 立川第三中学校

立川市立立川第九中学校

作詞: まど・みちお 作曲: 金光威和雄(こんこういわお)

ここは宇宙のどのあたりか
櫛の風に小鳥はうたい
生き物の星はこんなに美しい
中学生よ
明日の地球の守り手よ
心やさしくあれ
太陽のほほえむもとで

いまは時間のどのあたりか
文化の花は夢から目ざめ
ようやく人は己を見つめてる
中学生よ
明日の平和のにな手よ
いつも賢くあれ
永遠を見あげてすすめ

もっと調べてみよう

- 校歌と同じように、校章(学校のマーク)にも、それぞれ由来があります。
自分の学校の校章の成り立ちや、何の形をあらわしているのか、調べてみましょう。
- 「富士山」が校歌の中でよくうたわれていることが判りました。
みなさんの学校からは富士山は見えますか？富士山以外の山も見えますか？
他にも、学校から見えるものや、地域の特徴などを探してみましょう。
- 参考に載せた他市の学校の校歌についても、国立市と同じように分析してみましょう。
また、お父さんやお母さんが通った学校の校歌がどんなだったか聞いてみましょう。

出典・参考文献 ([]内の番号は、国立市図書館における分類番号です)

国立市立国立第五小学校校歌：学校資料による

国立市立国立第一中学校校歌：『一中便覧 平成6年度』 [10/O3/]

国立市立国立第三中学校校歌：学校資料による

その他の学校の校歌：各校のホームページより

国立市小学校・中学校学区域図：国立市教育委員会ホームページより

『発掘！校歌なるほど雑学事典』 [767/6/]

著者：校歌こだわり調査隊 出版者：ヤマハミュージックメディア 2004年

『東京女子体育大学・東京女子体育短期大学この10年のあゆみ 2002－2012』

編集：藤村学園創立百十周年記念記録等作成実行委員会 [10/O2/]

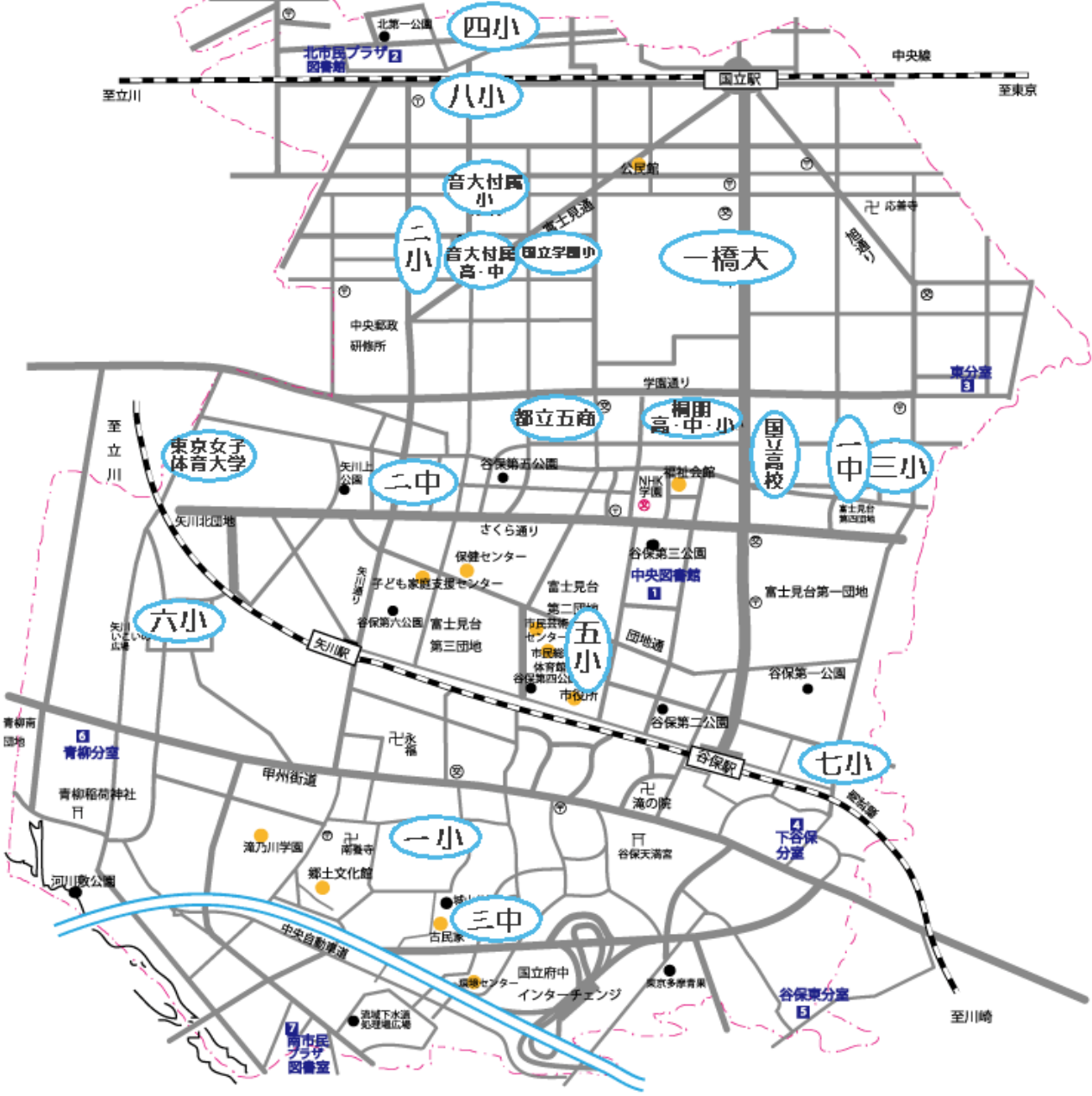
出版者：藤村学園 2012年

『校歌の風景 ～うたわれる郷土多摩～』

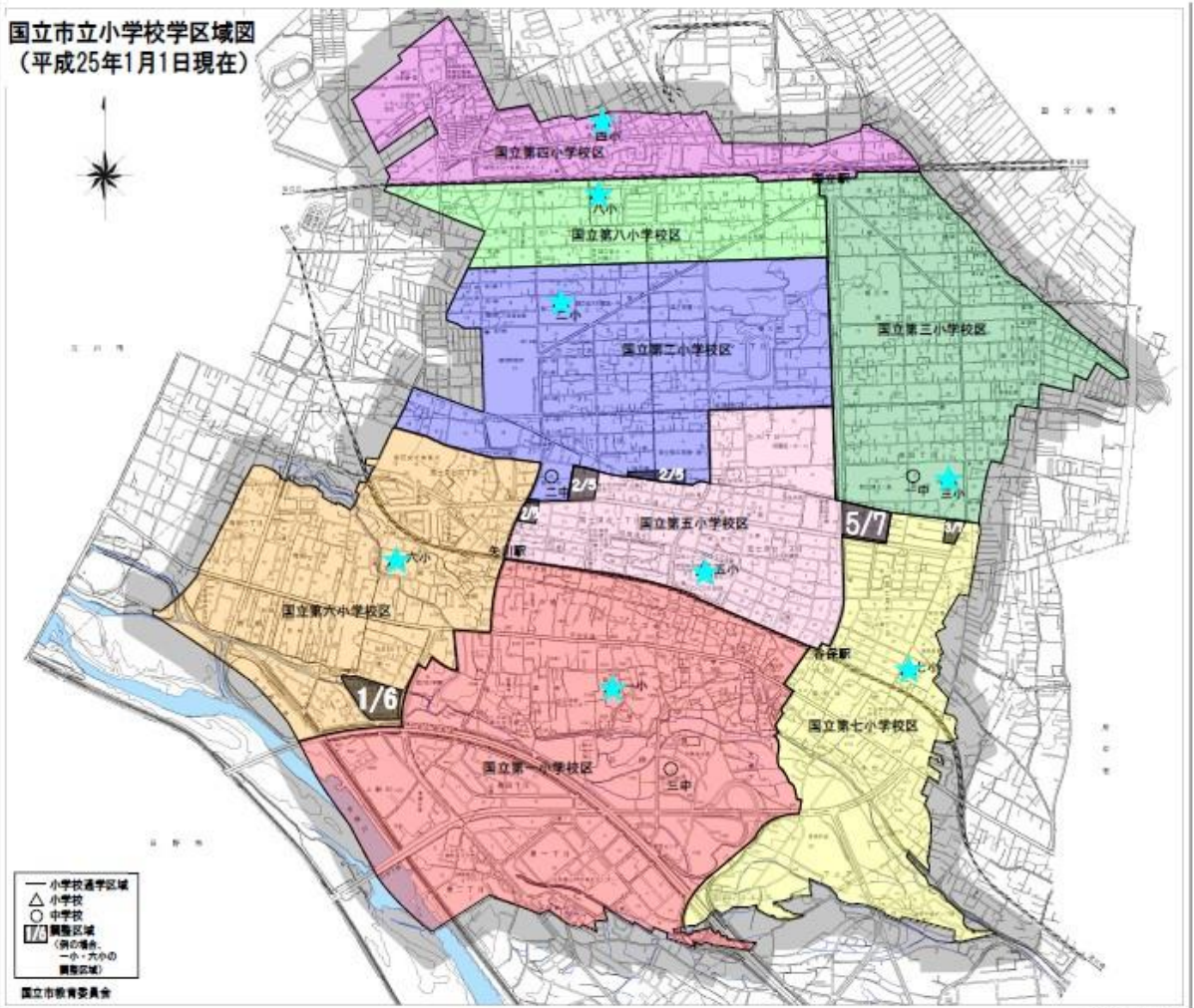
パルテノン多摩 歴史ミュージアム 企画展 解説冊子

編集・発行：財団法人多摩市文化振興財団(パルテノン多摩) 2008年

国立市内の学校



国立市立小学校学区区域图
(平成25年1月1日現在)



国立市立中学校学区区域图
(平成25年1月1日現在)

